

つくしノトクサ科の多年草。
スギナの胞子茎をいう。3月
ごろから日のあたる土手や畦
道に生える。筆のような形を
しているでこの名がある。

らしく

自分らしく、
粹なくらし

CLOSE UP

地域で活躍、輝く女性

広島ママブラスpeace

ママだって子どもと一緒に趣味を満喫、地域活動にも参加

特定非営利活動法人ひろしま女性NPOセンター未来

女性がいきいきと暮らせる社会の実現のために
多角的な活動に取り組む

高齢社会をよくする女性の会・広島

女性の視点を大切に、おひとりさまを支える地域づくりを

連載

- ▶ Hmi助成支援団体のご紹介 ▶ 人材バンク 名人 宝人 達人 ▶ ようこそ! 公民館へ〜南区内公民館〜
- ▶ らしくレポート ひろ記者が行く・選手自らが教えてくれるバスケット観戦の極意!!
- ▶ らしくコラム・市民の意識で社会をもっと変えよう ▶ 情報の森 ▶ プラザ通信



ママだって子どもと一緒に趣味を満喫 地域活動にも参加

「広島ママブラスpeace」の皆さん

CLOSE
UP

地域で活躍、輝く女性

女性がいいきと活躍することは、地域社会の活性化につながります。
今回は女性が中心となってさまざまな活動に取り組む団体を紹介します。

広島ママブラスpeace

<http://brasspeace.web.fc2.com/>

音を出すことに喜びを感じ、感動を覚える

平成19年3月に、子育ての最中だけど音楽を楽しみたい、乳幼児や子どものいる家族も皆で一緒に楽しめる音楽を届けたい、そんな思いを持った清水寿代さんの呼びかけに応じた宮武美西さんら、広島市とその近郊に住むママたちで結成したのが「広島ママブラスpeace」です。

「当時、全国的にママブラスがはやっており、中学・高校時代に吹奏楽部だった私も音楽活動を再開したくなりましたが、広島市で活動しているママブラスが見当たらなかった所以自分たちで作ることにしました。インターネットの交流サイトを通じて呼びかけたところ、同じような思いだった人たちが集まりスタートしました」と代表を務める清水さんは当時を振り返ります。

10人ほどでスタートした「広島ママブラスpeace」に、音楽講師の経験があり、指揮もできる宮武さんも参加。広島市青少年センターを拠点に練習を重ねて、結成からわずか10ヵ月後の12月には、30人ほどのメンバーで初めての演奏会を同センターで開催しました。



▲ 定期演奏会の様子

「初めての演奏会を複数のメディアに取り上げていただいたおかげで、それを見た方からの参加希望が相次ぎました」。メンバーは、その後も増え続けて結成から10年目となる現在は55人が在籍。毎年8月最終日曜日の定期演奏会、そして幼稚園や保育園への訪問演奏に向けて、広島市出島福祉センターを拠点にして月4回の練習をしています。

「メンバーの大半は、中学校や高校での吹奏楽経験者です。コンクールで入賞を目指して必死に取り組んでいた人もいれば、楽しんで演奏していた人もいます。結成して2、3年の頃は経験してきた環境が違う人たちの目的意識を同じようにすることは大変でしたが、共通していたのは、“皆で一緒に音を出すことが楽しい”という思い。その気持ちを忘れずに、どうすればメンバー皆が同じ方向を向いてくれるのかを考え、常にそれぞれのレベルの一步上を目指して練習に取り組むように意識づけしていたところ、次第に一つにまとまってきました」。



▲ 子どもと一緒に練習する様子

家族のサポートが活動を支える、 子どもの成長とともに夢も広がる

演奏会を重ねるにつれて、演奏する自分たちが震えるほどの感動を覚えるという「広島ママブラスpeace」の活動。その活動の中で欠かせないのが、メンバーの家族の理解と協力です。

「練習は月4回ほどありますが、それぞれに家庭があり、子育ての環境も異なります。しかしその中で、一人一人が他のメンバーの立場を尊重し、理解しているからこそ10年も活動を続けてこられたと思います。もちろん、練習や演奏会に参加することを理解し、サポートしてくれる家族にも感謝しています」と指揮を務める宮武さん。

演奏会では、家族や友人、同世代の子どもを持つ方々から「ママパワーに感動した」「自分も何か始めてみたい」といった感想が寄せられ、それもメンバーの励みになっています。

また普段の練習は、練習場所に隣接する部屋を借りて、子ども同士が遊んだり、勉強したりする場を作っている他、小さな子どもを抱っこして演奏するメンバーもいるそうです。

「メンバーの子どもは0歳～高校生までと幅広いのですが、最近は小学生が多くなり、演奏に合わせて親子合唱にも挑戦しています。もう数年すると中学校、高校へ進学する子どもたちが増えるので、一緒に楽器を演奏できるようになると、また違った楽しさが出てきますね」。

子どもの成長に合わせて、「広島ママブラスpeace」も成長を遂げようとしており、これからの活動に、大きな夢と可能性を感じました。



▲ 清水寿代さん(左)と宮武美西さん(右)

自分らしく、
粋なくらし

Vol.47
土筆号
2017.3

contents

- 01 特集**
地域で活躍、輝く女性
▶ 広島ママブラスpeace
▶ 特定非営利活動法人ひろしま女性NPOセンター未来
▶ 高齢社会をよくする女性の会・広島
- 05 Hm助成支援団体のご紹介**
▶ アークウォーク広島
▶ 笑顔つながり隊
▶ 観光アシスタントひろしま
- 07 人材バンク 名人 宝人 達人**
▶ 人材バンク活性化委員会
- 09 ようこそ! 公民館へ・南区内公民館**
- 10 らしくレポート ひろ記者が行く**
▶ 選手自らが教えてくれるバスケット観戦の極意!!
らしくコラム
▶ 市民の意識で社会をもっと変えよう
広島大学大学院 社会科学部 社会科学研究科
中坂 恵美子 教授
- 11 情報の森**
- 15 プラザ通信**



【表紙写真】子どもと一緒に練習する様子

女性がいいきと暮らせる社会の実現のために多角的な活動に取り組む

特定非営利活動法人ひろしま女性NPOセンター未来

<http://www.npomirai.com/>

女性が自分らしく生きやすいまちづくりのために4つの活動に取り組む

広島県が男女共同参画社会の実現を目指し開講した、人材養成講座「ひろしま女性大学」の修了生を中心に、平成15年4月に結成されたのが「特定非営利活動法人ひろしま女性NPOセンター未来」です。

女性が自立し一生を通していきいきと暮らしていけるまちづくりに貢献することを目的とし、4つの活動をしています。「ひろしま女性大学で学んだことを、継続していきたいと考えてこの団体を立ち上げました。活動の一つ目は、結成のきっかけとなった男女共同参画啓発事業、二つ目は女性の就業・起業支援、三つ目は人と人とが紡ぐまちづくり、四つ目は女性の健康です」と理事長の天部テルミさんは語ります。



▲「大聖院で能を楽しむ会」の様子

人と紡ぐまちづくりとしては、結成当初から13年にわたり毎年、劇団前進座の俳優・嵐圭史さんを招き、宮島を舞台に「平家物語」を1巻ずつ原文で朗読する会を開催。3年前からは金春流シテ方能楽師・政木哲司さんを招いて能の鑑賞を通して、地域文化に触れる活動もしています。

ピンクリボンキャンペーンを通して健康な体づくりをサポート

そして活動の中心となっているのが、プレストケア・ピンクリボンキャンペーンの普及です。「日本では30代～50代の女性の死亡原因第一位の疾患が乳がんです。早期発見・早期治療が乳がん対策の決め手ですが、定期的に検診を受ける人はなかなか増加しません。そのために広島県の市民団体としては初めて、受診しやすい環境づくりを進めるプレストケア・ピンクリボン



▲「ピンクリボンdeカープ」の際に作った「カープコラボフラータオル」



▲「ピンクリボンdeカープ」乳がんサバイバーによる始球式の様子

キャンペーンの活動を、結成した年から現在まで続けています。幾つかあるそのキャンペーンの中でも大きなイベントとなっているのが、広島東洋カープとのコラボレーショ



▲平成28年5月に行われた「ピンクリボンdeカープ」の様子

ンです。毎年1回「ピンクリボンdeカープ」と題し、試合当日の球場そばにマンモグラフィ検診車を派遣し、希望者を抽選し検診を受けていただいています。また、自己検診法を学んだり、マンモグラフィ機器の展示や健康コーナーの開設もしています。さらに、試合途中には主旨に賛同した広島市内の女子大学生と連携したPRパフォーマンスも行っています。また同様のコラボレーションは、広島交響楽団の特別協賛により定期演奏会会場でも行っています。

今後の活動については、「理念でもある男女共同参画社会の実現を目指していく上で、女性の就業・自立意識を高めていくのはもちろんですが、そのためには健康な体づくりは欠かせません。結成して間もなく14年が経ちますが、乳がん検診を受診される方は、著名人が乳がんを患ったニュースが報道されると、一時的に増えます。しかし、時間が経つと残念ながら受診者は減少していきます。少しずつでも、女性一人一人の意識を高めて定期的に受診する人が増えることを願っています」と天部さんは語ってくれました。女性が自分らしくいきいきと暮らせるように行っているさまざまな活動は、地域社会の活性化にもつながっていると感じました。



▲平成29年1月「ピンクリボンde広響」での乳房モデルを使った自己検診体験学習

女性の視点を大切に、おひとりさまを支える地域づくりを

高齢社会をよくする女性の会・広島

<http://www.wabashiroshima.org/>

「女性」「暮らし」「高齢期」をキーワードに

平成17年に、広島で「高齢社会をよくする女性の会第24回全国大会・広島」が開かれたのをきっかけに、平成18年5月に発足したのが「高齢社会をよくする女性の会・広島」です。

「全国大会は、以前から面識のあった「高齢社会をよくする女性の会」の代表樋口恵子さんから、『広島でも全国大会を引き受けて欲しい』という依頼があり開催することとなりました」と語るのは代表の春日キスヨさん。全国大会の実行委員を中心に、大会後も継続して何らかの形で「学びの場」として継承していきたいという声が上がリ、広島での活動が始まりました。

「女性」「暮らし」「高齢期」をキーワードに女性の視点から、さまざまな問題の解決に向けて取り組みを続け、平成27年には活動10周年を迎えました。記念行事として「介護問題」についてシンポジウムを開き、平成28年には広島市の地域支援事業の取り組みについて議論を交わし、問題点を幅広く訴えています。

この10年間で変わらないのは、老いてひとり暮らしをする「私」が幸せに生きるためには、「私が変わること」「社会を変えること」、この2点が重要な考え方という点です。社会が劇的に変わる中で生き抜いていくためには、その人それぞれが変わり続ける力を持つことが不可欠と考えています。



▲平成27年5月に行われた10周年記念事業の様子



▲前列、春日キスヨさん(左)、樋口恵子さん(中)、上野千鶴子さん(右)

迫りくる高齢化社会の問題解決に向け、自己意識改革と必要な知識を身につける

暮らしていく上でのさまざまな問題解決の取り組みの一つとして、助成を受け平成24年に「認知症行動マップ」を、平成26年には「がん行動マップ」を作成。マップを広く社会に普及させることによって社会を変えていくことを目指し、聞き取り調査や合宿、年10回以上の勉強会を重ね完成させたそうです。



▲認知症行動マップ・がん行動マップ

他にも「ひとり暮らし」の知恵を会員同士が交換し合う「おひとりさまカフェ」を2ヵ月に一度開催。ひとり暮らしの身に、いざ何かあった時の危機対応能力を



▲おひとりさまカフェの様子

参加者全員が身につけることができるように取り組んでいます。さらに、「人生100年時代のライフプラン」と題して、80歳代でとどまるライフプランを100歳まで生きる時代に組み替える3回連続のワークショップを開催。そのいずれもが、参加者からは高評価を集めているそうです。こういった一人一人の自己意識の変革が、住みまちの介護保険のあり方について議論を重ねるソーシャルアクションにもつながる力になっていきます。こうした活動は、高齢化により地域の互助力が弱くなり、大都市のようにNPOや充実したケアサービスにも恵まれない地方都市だからこそ、重要だと考えています。

「会の立ち上げから10年以上が経ち、5年後、10年後と次の世代に向けてバトンをつないでいくことを考える時期に差し掛かっています。その中で、在宅ケアなど的高齢者問題が多くなるこれからの時代を、どう乗り越えて生きていくのか。試行錯誤を続けながら、引き続き自己意識の変革に取り組んでいきます」と、春日さんは今後取り組むべき課題とビジョンについて語ってくれました。全ての人が避けて通ることができない、さまざまな社会問題の解決に向け、女性ならではの視点で真摯に取り組む皆さんの姿勢に、強い思いを感じました。



▲会員の皆さん